

氏名	花 房 純 弘		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博 乙 第 2739 号		
学位授与の日付	平成 6 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	ヒト赤血球系細胞の細胞内フェリチンに関する研究 —成熟段階におけるトランスフェリン受容体及び可溶性鉄との 関係について—		
論文審査委員	教授 岡田 茂	教授 辻 孝夫	教授 太田 善介

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ヒトの骨髓塗抹標本を用いて赤血球系組織内のフェリチン (Ft) の半定量法を考案し、同一の細胞について細胞成熟度とFt, トランスフェリンリセプター (TfR) 及び可溶性鉄顆粒 (SIG) の諸因子についてその関連性を検討した。その結果, Ft-H subunit濃度は好塩基性赤芽球から正染性赤芽球までの成熟の過程で減少し ($r=-0.62$, $p<0.05$), 脱核以後は著減した。Ft-H subunit濃度とTfR密度との間には弱いながら正の相関があったが ($r=0.52$, $p<0.01$), Ft-H subunit濃度とTfR密度, あるいはSIG密度との相関は不明瞭であった。従って, 赤芽球の分化成熟過程においてはL subunitよりH subunitがより重要な機能を果たしている可能性が示唆された。また, Ftの発現には細胞成熟度などの細胞内鉄レベル以外の因子の関与が考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は, ヒト赤芽球の細胞成熟度とフェリチン, 及び可溶性鉄顆粒の諸因子についてその関連性を検討したものである。この結果, 赤芽球の分化成熟過程においては, 可溶性鉄顆粒の減少にはフェリチンL鎖よりH鎖がより重要な機能を果たしている可能性が示唆され, 重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって, 本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。